

教育実習指導(事前・事後) 22K(小免取得者対象)

坂田・石橋・東元

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業科目では、教育実習(幼稚園)の事前事後指導を行うことを目的としている。実習のための準備として、①実習に臨むための心構え、②保育活動をする上で必要な知識や技術を総合的・実践的に復習、③保育実践を記録するための留意点、④指導案の作成などについて担当教員の実務経験に基づいた指導により理解を深めるとともに、実習のための手続き方法や書類の作成方法等を指導する。実習終了後には、実習を振り返って自己課題を見出し、その後の学習に生かすことができるための指導を行う。

授業計画

第 1 回	実習先でのオリエンテーションの受け方
第 2 回	日誌の書き方
第 3 回	実習指導案の作成
第 4 回	保育技術を高める① 弾き歌い①
第 5 回	保育技術を高める② 模擬保育(製作)
第 6 回	保育技術を高める③ 絵本の読み聞かせ
第 7 回	保育技術を高める④ 弾き歌い②(個別指導)
第 8 回	実習直前指導
第 9 回	教育実習を振り返る 一報告書作成

到達目標

実習前…実習に必要な保育技術を習得することができる。また、実習日誌を正しく書くことができる。指導案を作成することができる。

実習後…自己の課題を見出し、自らに不足している保育者としての資質を理解することができる。

履修上の注意

- ・幼稚園教諭免許状取得希望者は必修である。
- ・授業はすべて出席すること。
- ・授業には『教育実習(幼稚園)のてびき』を必ず持参すること。
- ・課題および様々な書類の提出期限を厳守すること。
- ・授業形態は、全員対象の場合や少人数で行う場合など、変則的に構成していくので、指示を聞き洩らさないこと。

予習・復習

予習…指示された課題を行う。

復習…返却された課題を見直す。ピアノの完成度をさらに高めるよう練習する。

評価方法

授業への取り組み 50%、課題の提出状況 50%

テキスト

『教育実習(幼稚園)のてびき』

教育実習指導(事前・事後) 22K（幼免のみ取得者対象）

坂田・石橋・東元

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業科目では、教育実習(幼稚園)の事前事後指導を行うことを目的としている。実習のための準備として、①実習に臨むための心構え、②保育活動をする上で必要な知識や技術を総合的・実践的に復習、③保育実践を記録するための留意点、④指導案の作成などについて担当教員の実務経験に基づいた指導により理解を深めるとともに、実習のための手続き方法や書類の作成方法等を指導する。実習終了後には、実習を振り返って自己課題を見出し、その後の学習に生かすことができるための指導を行う。

3年次では、第13回までを実施し、4年次では、第14回以降（イタリック体）を実施する。

授業計画

第1回	ガイダンス 教育実習とは	第14回	実習先でのオリエンテーションの受け方②
第2回	日誌の書き方	第15回	保育技術Ⅱ「弾き歌い」
第3回	実習指導案の作成	第16回	保育技術Ⅱ「模擬保育」
第4回	保育技術Ⅰ「弾き歌い①」	第17回	保育技術Ⅱ「絵本の読み聞かせ」
第5回	保育技術Ⅰ「弾き歌い②」	第18回	実習直前個別指導
第6回	保育技術Ⅰ「製作」	第19回	実習の諸注意
第7回	保育技術Ⅰ「絵本」	第20回	教育実習Ⅱを振り返る —報告書の作成
第8回	先輩の経験談を聞く		
第9回	特別講義 「パネルシアターの演じ方」		
第10回	実習先でのオリエンテーションの受け方①		
第11回	実習直前個別指導		
第12回	実習の諸注意		
第13回	教育実習Ⅰを振り返る—報告書の作成 教育実習Ⅱに向けての課題		

到達目標

実習前…実習に必要な保育技術を習得することができる。また、実習日誌を正しく書くことができる。指導案を作成することができる。

実習後…自己の課題を見出し、自らに不足している保育者としての資質を理解することができる。

履修上の注意

- ・幼稚園教諭免許状取得希望者は必修である。
- ・授業はすべて出席すること。
- ・授業には『教育実習(幼稚園)のてびき』を必ず持参すること。
- ・課題および様々な書類の提出期限を厳守すること。
- ・授業形態は、全員対象の場合や少人数で行う場合など、変則的に構成していくので、指示を聞き洩らさないこと。

予習・復習

予習…指示された課題を行う。

復習…返却された課題を見直す。ピアノの完成度をさらに高めるよう練習する。

評価方法

授業への取り組み 50%、課題の提出状況 50%

テキスト

『教育実習(幼稚園)のてびき』

授業概要

教育実習を行うに当たっての事前指導と教育実習終了後に行う事後指導とに分けられる。事前指導では、担当がそれぞれの学校教育現場での教員としての実務経験を基に、教育実習に関する諸手続き、教育実習の意義や目的、学習指導を行う際に必要不可欠な学習指導案の作成、模擬授業の内容等について指導する。事後指導では、教育実習において作成した学習指導案、その授業記録を基に学習指導のあり様について考察する。

授業計画

第1回	教育実習の意義や目的	
第2回	学習指導案の意義	
第3回	学習指導案の書き方	
第4回	学習指導案の作成(細案と略案)	
第5回	学習指導案の検討	
第6回	小学校での授業の参観	※学外活動
第7回	模擬授業の準備(発問計画の作成)	
第8回	模擬授業の準備(板書計画の作成)	
第9回	模擬授業の準備(教材・教具の作成)	
第10回	教育講演会	※外部講師招聘
第11回	模擬授業の実施	
第12回	模擬授業(授業記録を基に)の検討	
第13回	教育実習の直前指導	
第14回	教育実習(評価授業の授業記録を基に)の報告	
第15回	授業記録を基に授業分析	
第16回	授業分析の発表と教育実習の反省	

到達目標

1. 教育実習の意義や目的について理解できる。
2. 学習指導案を作成することができる。
3. 模擬授業を実施し、その逐語記録を取ることができる。
4. 逐語記録を基に授業を分析し、考察することができる。

履修上の注意

本授業の履修者は、小学校へ教育実習に行くことを前提としている。したがって、授業に参加する際は実習に参加していると捉えて臨むこと。遅刻・欠席は厳禁である。また、授業への取り組みが実習に相応しくないと判断した場合、実習に行けなくなる場合もある。

教育に係わるボランティア活動に積極的に参加すること。また、実習に関わるガイダンス等に必ず出席すること。

予習・復習

授業内容は、積み上げ方式になっているので、前回の授業内容を踏まえておくことが重要である。授業内容に関連した課題は、次の授業時までにとまとめておく。

評価方法

ポートフォリオ(授業で学習した内容を振り返り、自分の学習の成果が分かるように「目次」「見出し」「全体の構成」「後書き」等を考えて、作成した学習記録)(20%)、課題(30%)、レポート・テスト(20%)、模擬授業を含めた平常点(30%)を基に評価する。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』(最新版)

『教育実習(小学校)のてびき』やその他の資料については、適宜配布する。

授業概要

本授業は、3年次、及び4年次の春期末までの2学年にまたがる授業である。

○3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習に向けて
実習に取り組むための準備を行う。実習の事前になすべきことを確認し、実習がより有意義なものになることを目指す。

○3年次の介護等体験実習、4年次の教育実習を終えて
各実習後は、実習を振り返ることで教職に対する理解を深める。なお、高等学校の免許のみ取得する場合でも、介護等体験に関わる授業を欠席することは認められない。

授業実施日の具体的な日程については第1回目の授業時に示す。

授業計画

第1回	実習全般に対する理解と4年次の教育実習校への内諾依頼の指導
第2回	特別支援学校実習に向けての事前指導
第3回	社会福祉施設における介護実習に向けての事前指導
第4回	社会福祉施設での実習体験の報告会と反省、特別支援学校実習の事前指導
第5回	特別支援学校での実習体験の報告会と反省
第6回	教育実習での参観実習の方法①
第7回	教育実習での参観実習の方法②
第8回	介護等体験実習全般の事後指導 「実習ノート」提出
第9回	教職課程における実習の意義についての確認
第10回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方①
第11回	「実習の手引き」の内容確認と実習記録の書き方②
第12回	校務分掌の確認・学習指導要領の各「領域」の確認
第13回	実習報告会
第14回	実習レポートの作成
第15回	実習レポートを踏まえた生徒指導・学習指導の再点検
第16回	実習全般のまとめ 実習記録の返却

到達目標

- ・教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高めることができる。
- ・教育実習の意義を理解することができる。
- ・自らの実習経験を客観的に分析し、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等を明確にすることができる。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。授業日、授業教室等については、教員・保育士養成センターの掲示で確認すること。

予習・復習

予習：各回における、「実習の手引き」、学習指導要領、生徒指導提要の該当箇所を精読する。
復習：毎回の授業で出題された課題を確認する。

評価方法

受講態度 50%・提出物の内容 10%・実習記録及び介護等体験記録ノートの内容 40%を基本とし、総合的な観点から評価を行う。
教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行う。なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。評価方法の詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

「介護等体験の手引き」「教育実習の手引き」「介護等体験記録ノート」「教育実習記録」
（いずれも授業時に配布する）